

## 2-1 洪水ハザードマップ

### 1 洪水ハザードマップとは

洪水ハザードマップは、大雨によって、市内を流れる加古川、加古川水系の各河川、法華山谷川、喜瀬川等がはん濫した場合の浸水範囲と深さを示したマップです。マップ上に示す浸水範囲と深さは、河川を管理している国土交通省や兵庫県が実施したはん濫シミュレーションの結果に基づいて作成しています。

過去の水害被害を踏まえ、堤防の建設等の河川整備が進み、近年では大きな水害が発生する頻度は減ってきています。一方で、地球温暖化等の影響により、近年は大雨が降る回数が増加傾向にあり、今後これまで体験したことが無い大雨が降る可能性も考えられます。

「もしも河川がはん濫したら・・・」を想定し、どの程度の被害となるのか、発生しそうな時に何をすればよいのか、日頃から何に気を付けて備えておくべきなのかについて考えてみてください。



台風により増水した加古川の様子

### 2 内水はん濫と外水はん濫について

洪水ハザードマップの浸水想定区域で示しているのは、河川がはん濫した場合です。これを「外水はん濫」と言います。一方で、水路や下水道等があふれて起こるはん濫を「内水はん濫」と言います。「外水」「内水」とは、堤防を基準として、堤防の外側（水が流れている河川側）のはん濫を「外水はん濫」、内側（建物等が建っている側）のはん濫を「内水はん濫」と言います。

河川がはん濫しない場合でも、内水はん濫によって浸水被害が発生します。特に低地や窪地、地下道等は浸水被害が大きくなる可能性があるため、土地の高さを日頃から注意してみてください。

#### 水路や下水道等があふれて起こるはん濫 (内水はん濫)



短期的な大雨により、河川の水位が急上昇することで下水道や水路からの排水ができなくなり、水があふれ出す現象を「内水はん濫」と言います。(P17以降の洪水・土砂災害ハザードマップに「既往浸水箇所」として示しています)

#### 河川のはん濫 (外水はん濫)



大雨によって河川を流れる水が大幅に増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊することにより水が流れ出す現象を「外水はん濫」と言います。加古川等の大きい河川では堤防が決壊すると甚大な被害が想定されます。

### 3 洪水ハザードマップ

浸水想定区域: 兵庫県CGハザードマップに基づいて作成

想定に用いた河川のはん濫条件

- 加古川 / 2日総雨量271mm (概ね150年に1回程度)の大雨が降ったとき
- 加古川水系(水田川、西川、権現川、磐川、小川、草谷川)、法華山谷川水系(法華山谷川、善念川)、喜瀬川水系(喜瀬川)、泊川水系(泊川) 1日総雨量189mm (概ね100年に1回程度)の大雨が降ったとき
- 加古川水系(曇川、国安川、別府川、白ヶ池川) 1時間総雨量66.2mm (概ね100年に1回程度)の大雨が降ったとき

